

第 28 回 日本血液学会北陸地方会 プログラム

当番会長 梅 原 久 範

期 日 平成22年7月24日(土) 午後2時より

会 場 石川県立中央病院健康教育館
(金沢市鞍月東2丁目1番地 TEL 076-237-8211)

【ご発表の方へ】

■一般演題は1題10分(発表7分+討論3分)です。発表は下記の2通りの方法から選んで下さい。

1. データ登録：事務局にてWindows XP (PowerPoint 2003) のパソコンを用意します。発表用データをUSB接続対応フラッシュメモリで用意して下さい。事務局のパソコンへの取り込みは、13時～13時45分の間に行います。時間厳守をお願いします。
2. パソコンの持ち込み：プロジェクタ接続ケーブルは、HD (3WAY) 15pin オスまでを事務局で用意します。これよりパソコン側のケーブルが必要なときは各施設で用意して下さい(特にMacintoshは注意して下さい!)。データの動作確認を済ませ、発表の30分前までに用意して下さい。発表時のパソコン操作は各施設をお願いします。発表者はパソコンの操作ができません。不測の事態に備えパソコン操作に詳しい方をお願いします。

■7月22日(木)までに1または2のいずれの方法で発表するかを地方会事務局までメール(hokuriku@med3.m.kanazawa-u.ac.jp)にてお知らせ下さい。

■発表データファイルのファイル名は、演題番号・所属・演者がわかるように簡潔に付けて下さい。(例：5_石川大血内_金沢太郎)

14:00 開会の辞 金沢医科大学 血液免疫内科学 梅原久範

14:05 座長 福井大学医学部 内科学(1) 吉田 明

① アミロイドーシスを合併したIgG-λ型多発性骨髄腫の1例 (79歳男性)

富山赤十字病院 血液内科 ○杉盛 千春、黒川 敏郎
金沢大学附属病院 輸血部 高見 昭良

症例：Weekly bortezomib+dexamethasone (BD) 3コースでVGPRを得たが、蛋白尿は持続している(4.7→2.5g/日)。討論のポイント：Weekly BD療法の効果と副作用、本例の治療方針について。

② 後腹膜リンパ節腫脹を来したIgG-κ型多発性骨髄腫 (74歳男性)

富山大学医学部 第三内科 ○在田幸太郎、和田 暁法、宮岡 卓宜、
村上 純、杉山 敏郎

パーキンソン病およびIgG-κ型多発性骨髄腫(病期ⅢB)と診断。MP療法後再燃し、ボルテゾミブにてPRに達し維持療法中、水腎症および後腹膜リンパ節腫脹を来し再燃。複雑核型を呈した。ボルテゾミブ+デキサメサゾンにて腫瘍と水腎症の改善を認めしたがPRに留まった。

③ リツキシマブが奏効した後天性血友病の一例 (66歳男性)

石川県立中央病院 血液内科 ○鳥田 麻里、笠田 篤郎、宗本 早織、
澤崎 愛子、山口 正木
石川県立中央病院 免疫感染症科 上田 幹夫

生来出血傾向なし。痔出血で入院中に消化管出血、軟部組織出血をくり返した。第Ⅷ因子活性低下、第Ⅷ因子インヒビター陽性で後天性血友病と診断。ステロイドで改善せず肺結核を合併。リツキシマブ投与により改善した。

14:35 座長 金沢医科大学 血液免疫内科学 正木 康史

④ 成人男性に発症したEBV関連血球貪食症候群の一例 (60歳代男性)

恵寿総合病院 ○青木 剛、山下 勇樹、真智 俊彦、
宮森 弘年
金沢大学附属病院 血液内科 大竹 茂樹
金沢医科大学 病理病態学Ⅱ 病理学 上田 善道

発熱を契機に入院、骨髄検査および皮膚生検よりEBV関連血球貪食症候群と診断。ステロイド及びVP-16が一旦奏功するも結局難治性であり、入院134病日に死亡。病理解剖結果も踏まえ報告する。

⑤ 様々な症状を呈し肺血栓塞栓症で死亡した血管内リンパ腫の一例 (60歳男性)

金沢医科大学 血液免疫内科 ○米澤 克隆、澤木 俊興、加藤 諒、
齋藤 孝博、中村 拓路、岩男 悠、
中島 章夫、三木美由貴、坂井 知之、
藤田 義正、正木 康史、福島 俊洋、
廣瀬 優子、梅原 久範

2009/06膀胱直腸障害出現、他院で精査したが原因不明。2009/09左腕外側に感覚鈍麻と異常感覚出現したが、これも原因不明。2009/12中旬より喀痰と微熱が出現。抗菌薬使用したが改善せず、CRP、LDHの上昇、血小板11万と低下認めた。2010/01/03両下肢の脱力が悪化したため当科紹介入院。骨髓内の浸潤細胞形態から、血管内リンパ腫が疑われ、画像的に腫瘍形成は認めなかったが、中枢神経病変や脊髄近傍、肺への浸潤が疑われた。1/7深夜肺血栓塞栓症で死亡。生前行ったランダム皮膚生検では血管内リンパ腫が確認され、また剖検では全身諸臓器に浸潤していた。

⑥ 脾限局 Diffuse Large B Cell Lymphoma (DLBCL) の1例 (74歳女性)

南砺市民病院 内科 ○荒幡 昌久
富山大学大学院医学薬学研究所 病理診断学講座 野木 一博
金沢大学附属病院 血液内科 中尾 眞二

不明熱で入院。全身CTでリンパ節腫脹なく、Gaシンチグラフィで脾臓にのみ高度集積あり。骨髄に異常なく、脾摘後DLBCLと診断しR-THP-COP施行中。稀な例であり、文献Reviewを交えて報告する。

⑦ 急速に四肢麻痺を来たした同種移植後Hodgkinリンパ腫の一例 (21歳男性)

富山県立中央病院 血液内科 ○本宮 佳奈、丸山 裕之、彼谷 裕康、
奥村 廣和、吉田 喬

Hodgkinリンパ腫 (CSIIA)。同種骨髄移植の2年後にMRIで脳・頸胸髄に異常信号が出現。再発を疑い、髄注・放射線療法・DLIを施行するが効果なく、診断・治療に難渋している。

15:15 座 長

富山赤十字病院 血液内科

黒川 敏 郎

⑧ メシル酸イマチニブにて治療中の全身性肥満細胞症 (62歳男性)

金沢医科大学 血液免疫内科 ○加藤 諒、福島 俊洋、齋藤 孝博、
米澤 克隆、中村 拓路、岩男 悠、
中島 章夫、三木美由貴、坂井 知之、
澤木 俊興、藤田 義正、田中 真生、
正木 康史、廣瀬 優子、梅原 久範
金沢医科大学 皮膚科 長谷井麻希
金沢医科大学 臨床病理学 湊 宏

2008年より鼠径、膝窩に褐色の皮疹が出現するも放置。2009年初めより食欲不振、2010年初めより腹部膨満感を自覚。近医で貧血、肝脾腫、リンパ節腫大を指摘され当院受診。骨髄生検では高度の線維化があり、皮膚、頸部リンパ節生検より全身性肥満細胞症 (systemic mastocytosis with an associated myeloproliferative disorders) と診断。6月よりメシル酸イマチニブによる治療を開始した。討論の希望事項：本例ではc-kit codon 816の変異を認めており、メシル酸イマチニブで十分な効果が得られない場合の治療法について、お教えください。

⑨ 初診時にRAEB-1と診断されたPNH型血球陽性骨髄不全の一例 (37歳男性)
金沢大学附属病院 血液内科

○岩城 憲子、山崎 宏人、杉森 尚美、
細川 晃平、望月果奈子、大畑 欣也、
前川 実生、門平 靖子、林 朋恵、
小谷 岳春、近藤 恭夫、高見 昭良、
中尾 眞二

骨髄スメアが過形成であり、芽球割合がNECの5.6%であったため前医でMDS-RAEB-1と診断され、非血縁ドナーからの同種骨髄移植目的で当科に紹介された患者。PNH型血球を検出したため免疫病態を有する骨髄不全と診断し免疫抑制療法を行った。

⑩ 11歳初発のMLL-AF4陽性前駆B-ALLの一例 (11歳女児)

金沢医科大学 小児科学

○岡田 直樹、堀 瑞子、平松 正行、
堀澤 徹、伊藤 順庸、中村 常之、
犀川 太

11歳初発のMLL-AF4陽性ALLを経験した。CD10-/19+を特徴とするMLL-AF4陽性ALLは乳児急性ALLに多く、予後不良である。造血幹細胞移植を含めた今後の治療について検討を行いたい。

⑪ 血液疾患に合併するBacillus菌血症迅速診断の重要性

福井大学医学部 内科学(1)

○根来 英樹、岩崎 博道、田居 克規、
池ヶ谷諭史、高木 和貴、岸 慎治、
山内 高弘、浦崎 芳正、吉田 明、
上田 孝典

血液疾患における好中球減少期のBacillus敗血症は急速に重篤な転機をたどることが多く、迅速に適切な抗菌剤を投与することが必要である。当院では積極的に迅速診断することで治療成績の改善がみられたので報告する。

15:55 総会

16:10 教育講演

座長 金沢医科大学 血液免疫内科学 梅原久範

演者 東京都立大塚病院 輸血科(血液内科)医長

宮脇修一先生

「AML治療の現状と今後の展開」

17:10 閉会の辞 金沢医科大学 血液免疫内科学 梅原久範